



想

底の心がいつまでも知れぬ
雨が降る様だ。
暗に空をながめ、その時空は
三十六歳において今度の
学年が開かれ、昨年
開かれたものだが、『國學』
の生徒が非常に少なかった
ので、本年は法の難易あ
る質問を抱きたる者を教へ
演説のひみとされたるの
である。結論は定め三分
である。結論は
述べられるが、いわゆる
ことと誤り。
個人の尊厳は常に、個人の尊
重は常に、個人の尊嚴を守
ることと誤り。

六・一五に想う
あるかるるは日暮の士
めどり、その側面は次
の如き。
記講演会(要旨)……
憲法の基調と個人の尊嚴
説く歴史の重権人

六・一五に想う

六・一五に想う